

漁況予報 いわし

第140号

2007年3～4月漁期
(2007年3月9日発行)

＝ 概況 ＝

【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は1月が17トン、2月が36トン（速報値）で、前年同期（1月：14トン、2月：1トン）を上回りました。漁獲増の要因は、2月上旬の数日間、相模湾東部の定置網に大羽がトン単位で入網したことによるもので、この時季としては珍しいことでした。

佐島地区のまき網は、2月上旬に1ヶ統が2日間で11トンを漁獲し、前年同期（1月：2.7トン、2月：0トン）を上回りました。漁獲場所は相模湾東部の定置網付近で漁獲日も近く、定置網と同様の群れであったと思われます。

魚体は、2歳魚（2005年級群、18～21cm）主体に1歳魚（2006年級、16～18cm）が混じりました。

しらすの試験操業では、2～3月に相模湾全体でマシラスが例年よりも多く捕獲されており、これらの個体が湾内で成長し、夏以降、小羽・中羽マイワシとして漁獲されることが期待されます。

【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は1月が5トン、2月が24トン（速報値）で、前年同期（1月：81トン、2月：57トン）を下回り、当期としては5年ぶりの低水準となりました。

佐島地区のまき網は、1ヶ統が2ヶ月間で合計2トンほど漁獲したのみで、少ない漁獲に終始しました。

定置網の魚体は、10～12cmの小型成魚を主体に12cm以上の大型成魚が混じりました。また、例年4月頃に混じる肥満度の高い個体が今年は2月下旬頃から見られています。

【しらす】

当センターでは解禁に先立ち試験操業を行いました。1月、2月は湾全体で全長30mmを超える大型の越冬カタクチシラスが例年になく高密度で分布しており、捕獲量は1網あたり50kg程度でした。3月の禁漁明け直前の調査では、カタクチシラスの分布密度が低下し、代わってマシラスが江の島から東側を中心に多く分布しており、捕獲量は1網あたり50kg程度でした。また、鎌倉地区など一部の地域では細かいカタクチシラスも分布しており、湾外では新仔が出現し始めていることが示唆されました。

解禁直後はマシラスが主体となり、徐々に新たなカタクチシラスが湾外から来遊してくるものと思われます。また、春シラスの親である大型成魚は低水準であるため、6月までの漁獲量は前年を上回るもののやや不漁となるでしょう。

＝ 予報 ＝

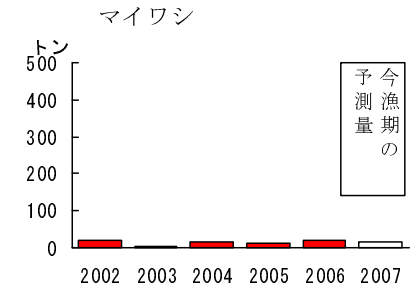
まいわし

今漁期は、中羽（1歳魚、2006年級群）及び大羽（2歳魚、2005年級群）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、太平洋系群の資源量指数から、定置網を主体に約18トンと予測されます。

* 縦軸：主要定置網+まき網

過去5年の3・4月漁期の漁獲量
と今漁期の予測量

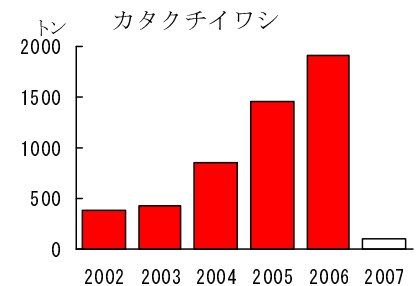


かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び大型成魚が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1～2月の県内主要定置網の漁獲量から、約104トンと予測されます。

* 縦軸：主要定置網+まき網

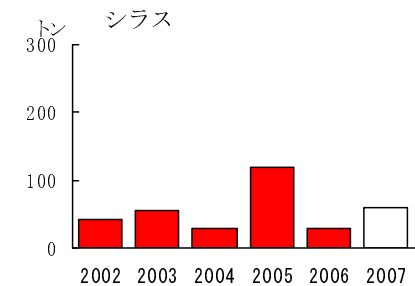


しらす

今漁期は、春生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

試験操業の結果から、解禁直後はやや大型のマシラスにカタクチシラスが混じり、徐々にカタクチシラスの本格的な来遊が始まるでしょう。

今漁期の漁獲量は、大型成魚資源量指数から、約59トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター資源環境部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313